

第十二講 ミケーネ国家と社会のモデル

レポート課題：ミケーネ文明の特徴とは？

古典学説

アジア型の官僚制を伴う専制国家

ヴェントリスやチャドウィックの方法論

H. D. チャドウィック、『ミケーナイ社会』、安村典子訳

(みすず書房、1983)

ミケーネ社会や国家をシュメールやウガリトなどの西南アジアの都市国家やヒッタイトの兵士の所有地を巡る封建的諸関係と比較。

コトナ・ケケメナと呼ばれるダモス所有地の個人への貸与や付帯する義務(カマ)、ワナカ(王)を支える宮殿の役人、エクェタを封建臣下と比較することでミケーネ社会と国家体制の特徴を炙り出していこうとする研究視点。

太田秀通

太田秀通、『ミケーネ社会崩壊期の研究』、岩波書店、1962

マルクス主義歴史観によるミケーネ社会と国家理解。

特に戦後に発見紹介されたマルクスの草稿『資本制生産に先行する諸形態』が指導動機となった。

ポリス社会に先行するミケーネ社会はより原始的な形態を留めたアジア型の社会でなければならないという理解。

ウェーバーの翻訳が出たばかりの論文『古代農業事情』の序説に展開されている国家モデル「官僚制を伴う都市王制」を援用。

宮殿に居るワナクスと呼ばれる専制的な王が、エクェタ、クアシレウからコレテ、ポロコレテ、ダモコロに至る階層的な官僚を通じてダモと呼ばれる農村を支配。広大な王領地と並んで農村共同体の所有地が存在しており、私有地所有に依拠する古典古代型の市民階層は未だ現われておらず、個人は共同体的諸関係の中に埋没していた。

家族形態はアジア型の大家族と古典古代型の小家族の中間的形態をとっていて、

拡大家族の形態がミケーネ社会を特徴付けていた。

このようなモデルの背景にはマルクス主義による発展段階的なミケーネ社会の位置付けと理解があった。

前川和也

前川和也、「シュメールとミケーネ」『京大人文学報』32（1971）

アジア型というには宮殿経済の規模が余りにも小さすぎる

宮殿が所有する家畜の規模が桁違いに小さい

中井

土地文書からは拡大家族の存在を証明することはできない。

ミケーネ社会は「アジア的共同体」社会か？

En.659 :

- 1.1: qe-re-qo-ta-o ki-ti-me-na....
- (qe-re-qo-ta の私有地・・・)
- 1.5: tu-ri-ja-ti te-o-jo do-e-ra e-ke pa-ro
- pe-re-qo-ta pe-qo-ta....
- (tu-ri-ja-ti、神の女奴隷、は老人の
- pe-re-qo-ta より保有する・・・)

Eo.224 :

- 1.1: a-ma-ru-ta-o ko-tona-ki-ti-me-na..... (a-ma-ru-ta の私有地・・・)
- 1.2: so-u-ro te-o-jo do-e-ro e-ke-qe o-[na]-to-pa-ro 《a-ma-ru-ta》‘pa-ra-ko’....
- (so-u-ro、神の奴隷、は《a-ma-ru-ta》‘pa-ra-ko’より小作地を保有・・・)
- 1.3: e-do-mo-ne-u te-o-jo do-e-ro e-ke-qe o-[na-to] pa-ro 《a-ma-ru-ta》
- ‘pa-ra-ko’....
- (e-do-mo-ne-u、神の奴隷、は《a-ma-ru-ta》‘pa-ra-ko’より小作地を保有・・・)

Eo.444 :

- 1.1: [?qe-re-qo-ta-jo ko]-to-na ki-ti-me-na.....
- ([?qe-re-qo-ta の私]有地・・・)

- 1.4: [tu-ri-ja-ti te-o-jo do-e-ra] e-ke-qe pa-ro pa-da-je-we pe-qa-ta.....
- ([tu-ri-ja-ti、神の女奴隷]、は老人の pa-da-je-u より保有する・・・)

線文字 B 文書における家族関係を示す名詞

wo-ko (家)
 pa-te (父)・ma-te (母)
 ko-wo (少年)・ko-wa (少女)
 tu-ka-te (娘)・ki-ra (幼女)
 i-jo (息子)
 父称名 (属格形) +i-jo/ju (・・・の息子)

古典古代にも兄弟での資産分有や親子の同居の事例は見られる

リュシラス兄弟は父の盾工場と奴隷を共有(『エラトステネス弾劾』)
 プラトンの『国家』に出てくるリュシラスの父ケファロス (ポレマルコスと同居)

タブレットが記録しているもの

所有者と貸与者の違いは家族を示さない
 複合的な貸与関係 (また貸し) を想定できる
 タブレットは所有者と最終的な耕作者 (小作人) を記録することに関心
 小作人への最終貸与者を記録しているに過ぎない

ハルシュテッド

非西南アジア・モデルの提唱: **wealth-financed economy** (財貨調達型経済)
 宮殿が全土を所有し、領国内の全ての経済活動 (生産、流通、蓄積、分配) を管理・統制するというレンフルーの「宮殿分配」モデルを批判。
 経済における宮殿セクターと非宮殿セクターの存在。宮殿セクターではエリートの身分誇示に関わる贅沢品やその生産に携わる職人に供給される原材料や食料を管理・統制。
 非宮殿セクターでは生活雑器や石器、小麦や大麦の栽培、亜麻の収穫などを行う。宮殿セクターは宮殿に隣接する地域で直接生産し、非宮殿セクターからはその生産物を貢税という形で調達するか、Xenwia (賓客関係) を利用して地方エリートと物の交換を通じて手に入れるか、o-no (oonos<ooneomai: 購買) という形態で調

達した。

宮殿の分配機能の過大評価

ミケーネやティリンスの王城の堅固さと規模

堅穴墓 A から出土した大量の黄金製品

ホメロスに比べたピュロス王国の経済規模（たとえば女奴隷の数）の大きさ

粘土板資料の過大評価

多方面に及ぶ言及

例：小麦、オリーブ、無花果、葡萄の生産と加工。羊（羊毛用）の飼育と加工

青銅の分配

貢租：土器、穀物、豆、若い牡羊、宝石、象牙、金、亜麻

ピュロス王国内の主要な経済領域をカバーしていると錯覚

宮殿が関与しない経済領域の存在

石器：農機具として生産（P. N. Kardulias, 1999）

原材料の 68.8%は黒曜石。これはメロス島からもたらされたもの。加工片はギリシア各地に偏在。

宮殿や地域の中心地からは殆ど出土せず、周辺地域から大量に出土。

線文字 B 文書にも言及されず。

海外からの石材の輸入、国内での原材料の供給、加工、生産品の管理、消費者への交換について宮殿は全く関与していないし関心を寄せていない。

宮殿が生産と分配統制に関心を寄せたのはエリート達の威信を高める物資に限られていた。

織物：宮殿に生産工房が付属。多くの職人を抱える。家畜群を管理。

金属：特に青銅。海外からインゴットの形で輸入。宮殿に先ずはもたらされ、次いで各地の鍛冶工に分配加工。完成品は初期によって記録され、倉庫に備蓄。

香油、ある種の土器。宝石。象牙。

宮殿が直接関与する経済領域と間接関与する領域の存在

直接関与する領域：小麦、オリーブ、無花果、葡萄の生産と加工。羊（羊毛用）の飼育と加工。

耕作用の牛が宮殿からダモスの土地に貸与される。この土地は宮殿の管理下にあ

る。

宮殿が耕牛を提供しダモスが労働力を提供する分益耕作。

直接生産は宮殿付属工房に供給される原材料と、工房で働く労働者に供給される食料。

貢租によって宮殿に供給される物資：間接関与。

貢租徴収の責は地方エリートが負う。

土器、穀物、豆、若い牡羊、宝石、象牙、金、亜麻。

Xenwia（賓客関係）による物資の交換。

宮殿間。宮殿外。

織物。香油。オリエントの印章。エジプトのカルトゥーシュ。

o-no (ooneomai : 購入) 文書：明礬や亜麻織物を購入。葡萄酒や小麦、青銅で支払い。

国家モデルの修正

従来モデル：中近東モデル

アジア型の専制的な君主権力

官僚行政と官僚機構

宮殿による中央統制型の経済

土器様式の均一性→宮殿による統制

巨大な倉庫群の存在→分配機能の集約

最近のモデル

王の名前すら分からない

行政文書に記載されることなし

中近東の都市国家に比べて規模が小さすぎる

ピュロス王国のセンター：最大 21ha

ウルク：100ha（初期王朝期初期）～400ha（初期王朝期末期）

宮殿経済の小ささ：既にシュメール学者によって指摘されている（前川）

王領地の狭さ、家畜群の規模の小ささ

宮殿経済は必ずしも絶対的ではない

生産規模の狭小性

貢租への依存度の大きさ

宮殿経済外の経済領域の存在

官僚制と言えるのか

役人の官職名が少ない：e-qe-ta（伯爵）、i-je-re-ja（女神官）、ku-ra-wi-po-ro（鍵持ち）、qa-si-re-u（地方の首長）、ke-ro-si-ja（長老会）、mo-ro-qa（持分地保有者）、ko-re-te（地区長）、po-ro-ko-re-te（助役）、du-ma-te（監督官）、da-mo-ko-ro（村長）

不完全な文書管理

経年的文書管理が行われていない

単年度の文書保存

年月日の記載の欠如

項目ごとに籠に入れて保管

粘土のラベル添付